

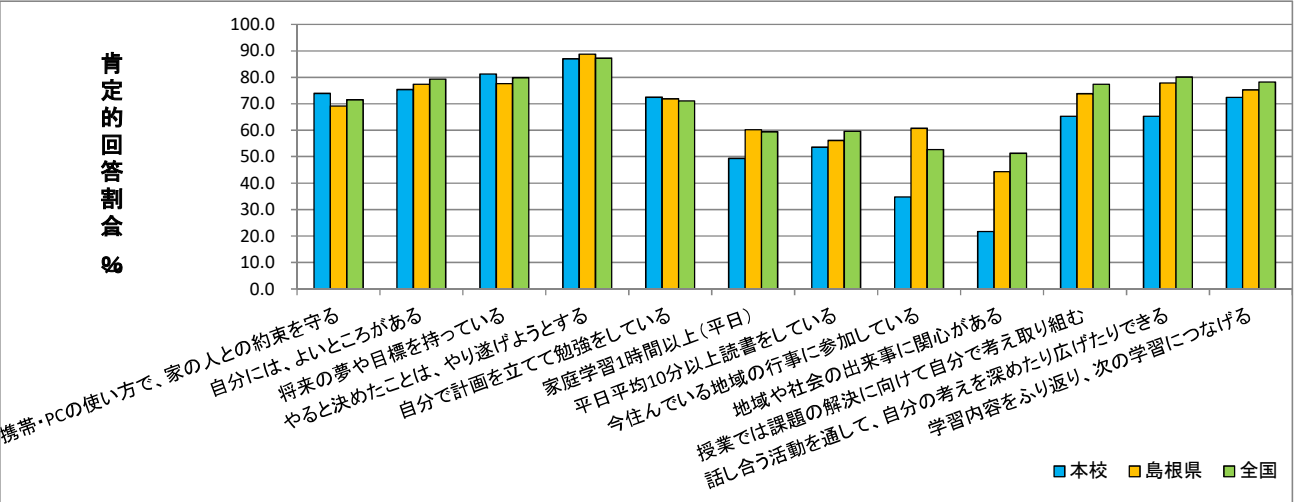
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○短文式と記述式の問題の正答率が高い。 ○話すこと・聞くことの領域の問題の正答率が高い。 ●言語文化に関する事項についての問題の正答率が低い。 ●選択式で、話合いの中での意図や理由を読み取る問題の正答率が低い。	・話し手の意図をとらえながら聞いたり、自分の意見と比べたりしながら考えをまとめる機会を意図的に設定する。 ・普段の生活の中から、相手の気持ちを考える機会を大切にする。
算数	○どの領域も、全国平均・県平均相当で領域によっての偏りがみられない。 ●短文式、記述式の問題で全国平均を下回っている。特に記述式の問題になると無回答率が高い。	・自分の考えを書く機会を増やす。 ・新たな課題に出会ったときに、既習事項をどのように活用して課題解決していくかを考える機会や、児童同士の教え合いの機会を増やし、経験を積み重ねていく。
理科	○短文式の正答率が高く、用語などの基本的な知識が身に付いている。 ●記述式の問題では無回答率が高く、分からない問題や自信のない問題に対しては考えることをあきらめる児童の割合が多い。	・関心を持って主体的に取り組めるような学習課題や、導入の仕方を工夫する。 ・分からない問題に出会ったときに、不完全でも自分の考えを表すことを大切に授業を進めていく。

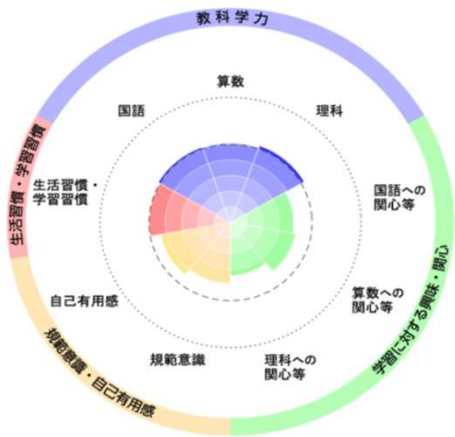
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○メディアの約束を守っている児童の割合がやや高い。 ●「今住んでいる地域の行事に参加している」という項目と、「地域や社会の出来事に関心がある」という項目において、非常に意識が低い。 ●家庭学習や読書の時間が少ない児童の割合が多い。	・地域や社会での出来事について、朝の会などで話題にあげたり、話し合ったりして関心が持てるようにする。 ・朝読書や学習に関連した本の紹介など、読書習慣をつけるために指導を工夫する。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「主体的に学びに向かう子の育成」というテーマで研究を進めているので、研究授業では1～9年生の全教職員が参加し、発達段階に応じた指導の在り方を考えていき、9年間の見通しをもって指導できるよう授業改善をしていく。

・学習規律や基礎学力を高められるよう、家庭の協力を得ながら取組や指導を行っていく。

【受検者数】

68 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。